



序. タラントの例え

「その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさん
の物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』」

十字架を目前にされたイエス様。弟子たちに、終わりの日は思いがけない時に必ず来ることを教えました。続いて、
10人の娘の例えとタラントの例えをもって、天の御国について話されました。本日の聖書箇所は、託されたものに
忠実であったしもべが主人に喜ばれ、更に大きな務めを任される例えを通して、地上で託されたものに忠実であった
聖徒が、御国で一層大きな喜び溢れる務めを任される幸いを表しています。

1億2,600万人から特別に選ばれた私たちにも、地上で託された務めに忠実である事を通して、御国で一層すばら
しい恵みをいただける幸いを味わえるのです。楽しみですね。ポイントは2つです。まず、ご主人の財産が元手です。
次に、能力に応じて財産が託されます。聖徒に特別に与えられた財産は、救霊の御業です。聖徒は、自分自身が救霊
の御業によって救いを味わい、救霊を担う者として遣わされるのです。私たちは、誘惑の多い宣教の困難地で奇跡的
に救われ、かつ困難地で宣教に召された者です。

本日ご紹介する「家の教会」の働きは、今の時代にあって、救霊の御業という主人の財産を忠実に用いて、救霊の
実を結ばせていただくという点で非常に優れています。理由は簡単です。みことばに著わされた、初代教会のあり方
を現代に再現したものだからです。一緒に来ました兄弟姉妹の証やお交わりを通して、家の教会を確かめてください。
そして、共に救霊の御業において忠実な者として生き、主から「よくやった。良い忠実なしもべ」と喜んでいただき、
御国においても喜び溢れた務めを担う者とされましょう。

私は、家の教会の証を喜んでいたします。残念ながら、すべてのクリスチャンに、天国で「良くやった」と言われ
るように、救霊の御業に仕える場所と仕える隣人が備えられていますが、自分でよくやったと実感する方をあまり見
かけません。しかし、家の教会は、クリスチャンの誰にも救霊の御業にフルタイムで関わられる実感と、実を与える
と信じているからです。では、知立教会の証を折り混ぜながら、家の教会の聖書的根拠を確かめたいと思います。先ず
は、3分程のビデオをご覧ください。

VIDEO 宇井牧場・港南牧場の様子 3分

1. 家の教会への導き

知立キリスト教会が家の教会を導入することになった理由を一言で表せば、牧師の挫折と信徒さんの霊的行詰まり
です。

①□ 奉仕の「実」を見たい

知立教会の信徒さんは、持てる賜物を良く献げておられます。ですから、なんとしても奉仕の実を見たい、見させ
てあげたいと願うのです。具体的には、教会の設立時から支えている姉妹たちの、未信者のご主人をはじめとする、
伴侶や家族の救いです。また、1992年から始まった母子教室を源流に発展してきた、ハレルヤ愛児園などの働きを
通しての救いです。しかし、伴侶の救いも、愛児園関係からの救いも難しい現実を見せられてきました。実を結べ
ない苦しみの中、一見教会は回っているのですが、信徒さんも牧師も少しずつ疲れてきました。

② 霊的渇きの悪影響

牧師も信徒さんも、霊的な喜びが見出されないならば、少しずつ生きる目的や優先順位が狂ってきます。知らず
知らずのうちに、教会の体質が変わっていました。

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| ・ 献身(奉仕)の疑い…義務感 | 救霊意識が弱い、維持目的の奉仕。受け身の姿勢。 |
| ・ 自己顕示の誘惑…人の評価 | 評価で一喜一憂。自己目的の奉仕。誇張が混じる。 |
| ・ 交わりの形式化…世の解決 | 交わり2元化。日常生活を隠す。親の裏表に不信を持つ子。 |
| ・ 問題対処で忙殺…悪循環 | 内向な総会や役員会。行事と慣例に終始。変化への拒絶。 |

ほころびが出ている状況に、うすうす気付きながらも、毎日のプログラムをこなす、問題に対処するだけで精一杯
でした。祈りも焦点が定まらない日々でした。牧師として最もきつかった2007年を経て、2008年秋に「家の教会」
に出会いました。学びを通して、教会を理解する枠組みに問題があると気付かされました。

③ 霊的渇きから潤いへ

気付かされたのは、教会の原型は初代教会にあるという事実です。難しいお話ではなく、教会は聖霊様に励まされ

た使徒たちによって建てられたという事実です。教会の原型は初代教会にあるのですから、立ち返るのも初代教会で良いのです。

しかし、簡単なようで簡単ではありません。家の教会の提唱者、チェ・ヨンギ牧師は、ヒューストンの牧師らしく馬の蹄鉄を例にされました。馬蹄を 100 個作るように頼まれた職人が一生懸命作って納品しました。しかし、依頼主は驚きました。形と大きさが見本と違っていたからです。なぜでしょうか。職人が、自分で作った製品を順繰りに見本にしたからです。僅かな誤差も 100 回繰り返されるうちに、大きな違いとなったのです。どうすれば、誤差の少ない同じ製品を 100 個作れるでしょうか。それは、最初の見本を、最後まで見本として使うことです。

世々の教会が継承してきた伝統や経験は大切な財産です。しかし、時折最初の見本に立ち返る必要があるのではないのでしょうか。

知立教会が抱えていた課題の出口は、聖書に著わされた初代教会にあり、使徒たちと同じように、主のご命令に従うというシンプルな応答にあったのです。家の教会は、方法論ではありません。初代教会のあり方を、現代の教会に取り戻すことであり、結果的に、聖霊様のお働きにより聖徒の霊的渇きが潤されるのです。

では、私たちも最初の教会の姿を確かめてみましょう。

2. 新約聖書の教会

聖書に著わされている初代教会の姿を理解するために、5つの聖句を確認し、教会の目的、教育、役割、姿勢、形態について確かめましょう。

① □ マタイ 28:19, 20 …目的は、弟子づくり

「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。」

イエス様が弟子たちに残した宣教命令です。三つの分詞が主動詞にかかり、行って弟子としなさい、バプテスマを授けて弟子としなさい、教えて弟子としなさいという意味になります。使徒たちが主の命令に従ったところに、教会が生まれました。生まれた教会も、主の宣教命令に仕えました。

教会は、イエス様の生き方を見本とする者たちによって福音が告げられ、未信者が導かれて、主の弟子にまで成長するのです。

② マルコ 3:13-15 …教育は、見せて教える

「さて、イエスは山に登り、ご自身のお望みになる者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとに来た。そこでイエスは十二弟子を任命された。それは、彼らを身近に置き、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。」

イエス様は 12 弟子をはじめ、弟子と生活を共にされました。どうして 12 人を選び、身近に置いて、公生涯を歩まれたのでしょうか。それは、主が御言葉と共に、ご自身の日常をお見せになり、弟子たちにモデルを与えるためでした。教会は、知識や経験の伝達にもまして、主のお姿に倣う者の生き様によって、弟子たちが育まれます。聖徒は、やって見せて教えます。

③ エペソ 4:11, 12 …役割は、聖徒が宣教の主人公。聖徒を整え支える牧師

「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、…」

教会に仕える僕は、イエス様によって立てられました。聖徒によってキリストのからだが出来上がるように、聖徒を整え、聖徒に奉仕の働きをさせるためです。初代教会は、多くの聖徒たちがキリストのからだを建て上げる働きをしました。

教会は、牧師や宣教師自身の働きも大切ですが、聖徒に見本を見せること、聖徒が自分でできるように整え励ますことが、主な働きです。聖徒自身にも大きな喜びが溢れ、他の聖徒への動機付け、見本、励ましとなります。良い循環の始まりですね。

④ マルコ 10:45 …姿勢は、仕えるリーダーシップ

「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」

イエス様は、我こそ栄光の座に着きたいと願う弟子たちに、人を支配する者や、権力を振るう者のようではなく、みなに仕える者、みなのおしもべになりなさいと諭します。ご自身も「仕えられるためではなく、仕えるため、いのちを与えるために来た」と明言され、弟子たちを導きました。

教会は、仕えるリーダーシップによって導かれます。世に影響されて、世的にできる人物が尊ばれるのではなく、イエス様の足跡を追い掛けるような、仕えるしもべが尊ばれるように、健康なキリストのからだ作りがされたら幸いです。

⑤ ローマ 16:5 他 …形態は、家の教会

「またその家の教会によろしくと伝えてください…」ローマ人への手紙の、末尾にあるあいさつです。プリスカとアクラがパウロの同労者であったことは知られていますが、彼らの家を用いた家の教会も、パウロの宣教において意味ある存在であったことがわかります。他にも例があります。

教会は、見える会堂ではなく、世から取り出された者の集まりだと言われます。家の教会において宣教の主人公は聖徒であり、聖徒たちが近隣の方々に福音を告げ、見せる証をもって導き、生活を共にして仕えるリーダーシップを発揮していたと考えるならば、代表的な4つの聖句が家の教会において実現していたことがわかります。初代教会は、組織化された教会ではなく、家の教会の連合体であったと考えられるのです。

3. 味わい始めた恵み

続いて、初代教会のあり方を、家の教会によって少しずつ実現してきた私たちの教会の現状を報告します。色々な課題は依然としてありますが、2007年頃に顕在化した霊的渇きの悪影響が和らぎ、問題点が隠れてしまうような祝福をいただいています。4つのポイントで表現してみましょう。

① 目的と優先順位が明確

教会には、できたら良い働きがたくさんあります。使徒2章には、ペンテコステの素晴らしい出来事と、そこに生まれた聖徒たちの美しい交わりが記されています。何千人もの人が救われたのですから、多くの賜物が与えられ、色々な良い働きがされたことでしょう。しかし、使徒6章において執事を選任すると共に、使徒たちの働きを御言葉と祈りに限定し、専念させました。それは、聖徒の集いの目的が明確であったからです。

教会は、良い事・必要な事・できる事を行なう集いではありません。魂の救いと主の弟子作りを、先ず優先しなければならぬのです。

知立教会は、家の教会を行うにあたって、教会の目的と優先順位が明確になりました。一例をあげるなら、礼拝です。家の教会に集うVIPにも受け入れられるように、時間を100分から70分に縮め、プログラムをシンプルにしました。また、日曜午後には会議的な集会を行わず、家の教会に関連する学びクラスに譲りました。更に、予算は魂の救いと弟子作りに益となるかどうかで判断されるようになりました。合言葉は、「良い事はしません。本当に必要な事に大胆に取り組みます。」です。

② 魂に仕える喜び・救いの実現

教会は、教える会と書くためか、知識や技術を持つ者が持たない者に教える所と誤解されがちです。しかし、クリスチャンは主の血によって買い取られたのですから、主のからだとして魂に仕える時にこそ、喜びを感じるものです。家の教会は、求める魂VIPに仕えます。特に、牧者や予備牧者は親身になって求める魂に仕えます。

今日、一緒に来会しました山口広雄兄は、教会設立直後から教会に集っておられる裕美子姉の37年の祈りが応えられ、今年洗礼に導かれた家の教会の果実です。詳しくは、礼拝後のお交わりや午後の集会でお聞きください。姉の祈りと共に、家の教会の交わりが豊かに用いられました。洗礼式に続いて、涙を流し喜んで山口兄をハグする家の教会メンバーの姿がとても印象的でした。

③ 聖徒が生き生き積極的に

日本に住む1億2600万人の中から、不思議な導きによってクリスチャンとされた聖徒が、生き生きと信仰生活を全うすることは、私たち牧師にとって最大級の願いです。しかし、多くの場合、クリスチャンにならなくても願っていたであろう事を願い続け、それが叶えられたとしても、魂の喜びには至っていません。

家の教会は、聖徒が直接求める魂であるVIPに、毎週の交わりで仕え、祈り続けます。祈った方が来会された時から始まり、小さな変化に一喜一憂する聖徒の姿は、自分の祝福だけを求めていた時と、その喜びの質において大きな変化があるように見えます。今日共に来会した大瀧夫妻も、家の教会の牧者として、新しい喜びを体験し始めたファミリーです。午後の集会での証しを楽しみにしてください。

④ 仕える僕が尊敬されている

社会的に地位のある方や、見事な奉仕を献げる方が教会で尊敬され、尊ばれても構わないと思います。しかし、その方も含めて見做すべきは、仕える為に、いのちを捨てる為に、天から下って来られたイエス様です。

家の教会と共に、知立教会にもたらされた霊的な喜びは、いずれも聖徒が魂に仕えた結果与えられた喜びです。ですから、仕える僕のあり方が尊ばれるように変わってきたように感じます。それと共に、既得権のように得意な奉仕を手放せないという不自由さが小さくなり、手放してももっと深い喜びが与えられるという、希望と安心の雰囲気が増してきました。

そして、仕える僕たちは、どのように仕えるのか、どのように備えたら良いのかを牧師に尋ね、祈り課題として依頼します。問題解決の牧師職とは、大きな違いがあります。僕として熟練する事を願う聖徒を、牧師は心から応援し、祈り、支え、尊敬するのです。そして、見本として、牧師自身も更に仕える為の熟練を願うのです。

4. 牧者の証(松平宣明兄) 15分

結. 家の教会への招き

知立教会には、小さな無認可幼稚園があります。先日、変に騒ぐ声があるので教室に行ってみると、園庭に出る為扉の前に8人程の園児が並んでいました。良く見ると、先頭の年長さんと年中さんが手をつなぎ楽しげに歌っているのです。続く年少さんや3歳さんも、それぞれに騒いでいました。そこで、年長さんに向かって「今、何をしている時かな。」と問うと、われに返って、教室内の友人に気付き、自ら口を閉じました。続いて、「小さい子は、憧れの年長さんの真似をするんだよね。」と語ると、扉の前に正座で待つ姿勢をしました。すると、年中さん、年少さん、そして3歳さんまでが次々と正座をして並びました。「すごいね。大智君がきれいに並んだら、みんなも並んだね。やっぱり、年長さんはみんなの見本なんだ。良かったね。」と言うと、嬉しそうな、照れくさそうな顔で、まんざらでもない笑顔をしました。

クリスチャンも、あるべき姿を取り戻す時に、本当の良さが溢れてきます。あるべき姿とは、イエス様の様に、使徒たちのように、魂の救いと弟子作りに、託された賜物を用いる、主のしもべの姿です。初代教会を回復する家の教会のあり方は、何にも増して、聖徒たちにクリスチャンならではの喜びを溢れさせます。この経験は、御国にまでも持って行ける、決して消えない尊き財産なのです。もう一度、主人の一言を読みましよう。

「その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』」

聖歌 578 「主の愛のながうちに」